

● 松島湾の藻場消失

【経緯】

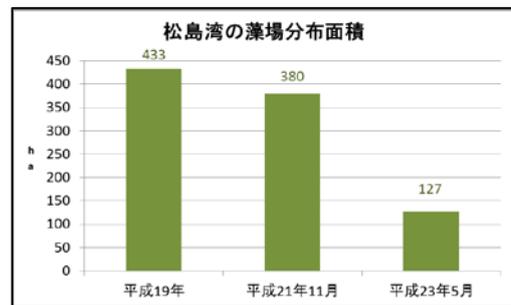
日本三景の一つとして有名な、仙台市の北東部に位置する松島湾は、のり、わかめ、こんぶなどの養殖、採藻が行われていました。しかし、東日本大震災の影響により、松島湾に分布する藻場の分布面積は、震災前の3分の1程度にまで減少しました。



奥松島の夕景

【活動成果・状況】

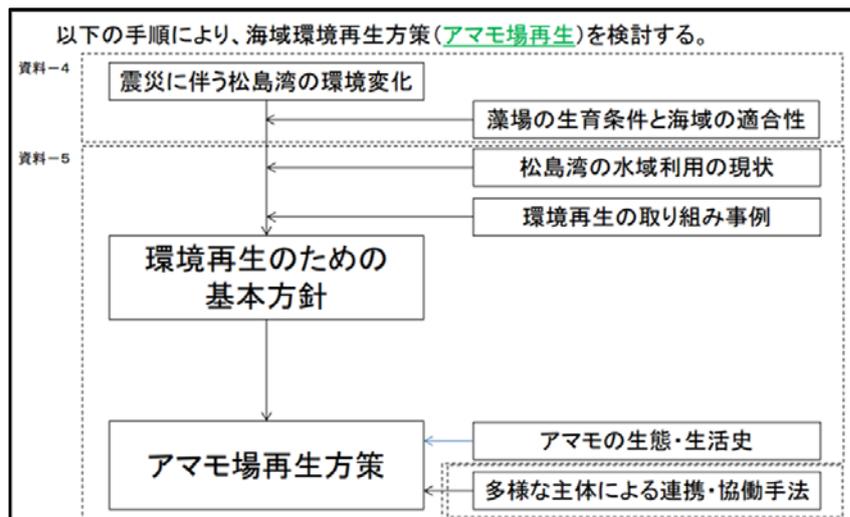
こうしたことから、平成24年2月に「松島湾アマモ場再生会議」（以下、再生会議。）は設立されました。アマモ場は、「海のゆりかご」とも呼ばれ、生き物のすみか、魚介類の産卵・育成場所といった機能を果たします。また、漁業活動や観光・レクリエーションの場としても重要です。そうした特長を持つアマモ場の再生するために、地元住民が中心となり再生会議は設立されました。



松島湾の藻場分布面積

漁業者、市民、企業、大学・研究機関、行政等が協働して、松島湾周辺のアマモ場の再生に関する情報交流、研究支援、啓発、実践活動を行っております。具体的には、「松島湾の海域環境復興を考える検討会」※に参加し、アマモ場再生の具体的な方策を検討しています。

※松島湾の地元関係者が主体となった環境復興の今後のあり方等について検討を行っている会。



海域環境再生方策の検討プロセス

塩釜港湾・空港整備事務所 HP <http://www.pa.thr.mlit.go.jp/shiogama/>

(松島湾の海域環境復興を考える検討会資料より)

松島湾アマモ場再生会議HP <http://matsushima-amamo.iimdo.com/>